

電報（秘密暗号法）

施錠する頃トシテノミ取扱ノコト

東京

一九四一年十一月十八日

土時五十分

着

十九日

六時十分

十一月十八日附才二四七二号

4070 C

独逸至外務大臣宛

緊急

首相兼外務大臣ハ議會演説ニ於テ豫期サレタ如ク、アメリカ合衆國トノ妥協ノ可能性ヲ排除シナイ努力ヲ明カニ示シタ。首相ノ提出シタ諸要請ハ他方アメリカノ政策ノ全面的変更ガナケレバ政策ノ変更ハ殆ド達セラレナイデアラウヲ示シテナル。又行動派ト如何ナル代價ヲ拂フテモ平和ヲ維持セントスル人達トノ間ノ争ハ決定的段階ニ入ルデアラウト想像スベキナル。

カレカレ

私ノ報告ニ於テ私ハ幾度カ行動派ハノモンハンノ經驗ニ從ヒ又独逸陸軍ノヤウチ陸軍ニ對スルロシヤノ抵抗ニ鑑ミソビエツト聯邦ニ對スル戦争ハノ参加ハ余リニ危険デアリ又余リニ利益少イ様ニ思フヲ居ルト云フヲ指摘シタ私ハ現在ノ首相ガ當時トシタ詳論（十月四日附才一九七五号電報報告参照）ヲ引用スル、南進ノ諸計畫ハ之ニ反シ、信ズベキ情報ニ從ヘバ今ヤ陸軍ニヨツテ眞面目ニ着手サレタ。最近私ハ日米戦争ノ場合何等ノ單獨講和或ハ休戦ヲ締結シナイト云フ独逸ノ約束ニ固スル慎重ナ海軍ノ打診ニ付テ報告シタ。（十月五日ノ才三三二号電報報告参照）今ヤ外國軍局長、將軍（此処ハ八名前ノ日本ガ援ケテナル様ニ思ハレル）モ亦、明ラカニヒカラノ指令ニヨツテ、陸軍武官ニ對シ轉送ノ懇請ト共ニ次ノ如ク話題ニセタ。

カレカレ

未栖ノ派遣ハ日米關係ヲ調整スル最後ノ試メアル日本參謀本部ハ平和的ノ調整ガ可能ナルトハ考ヘテナナイソノ時必要ナル日本ノ

自由行動ハ恐ラクアメリカ合衆國ノ戦争参加ヲ招来スルデアラウ。  
コレハ独逸ニトクテ只今ハ恐ラクハ不可解デアリ。又大局的ニ見レバ然  
シソレモ有利ナク実デアル。單ニ新ルフトが問題トナリ得ル日本ノ南  
進ノ時機ハ独逸ノ東地中海並ニ近東ノ東亞地域ヘノ重点轉向ヨリ時  
間的ニ著シク先ニ行ハルデアラウ。直接ノ作戰的協同ハ兩戰場ノ近  
東並ニ極東ノ地理的ニ分離シテキルノドウシモ不可能デアル。  
日本ノ參謀本部ハ最善ノ相互援助ハ兩國即チ独逸ト日本ニ休戰或  
ハ平和ヲ單獨ニセズ只一緒ニ締結スル義務ヲ負ハスルト見テキル  
企圖サレタ日本ノ南方作戰ニ就テ詳細ニ述ベルルハ彼ハ田下ノ所彼ニ  
對シテモ亦不可能デアル

陸軍武官ノ意見ト一致スル私ノ見解ニ從ヘバ海軍トノ平行的打診  
ニ相應スル岡本將軍ノ傳達ハ今ヨリ日本陸海軍即チ日本ニ於ケル決定の  
要素ノ公式ト考ヘラレテキル打診が現在存在シテキルトイフヲニ於テ評  
價スベキデアル。

私ハ從來之等ノ思想ノ傾向ニ立タルヲ避ケテ来タ而シテ陸海軍武官  
ノソレトテ度同ジ様ニ私ニ與ヘラレタ言論指令 / *Spinal Regelung* /

ニ從ッテ私ハ談話ニ於テ日本ハアメリカノ統治領（フィリッピン）ガカ行  
動ニヨッテ侵サレナイ限り武裝的米英干涉ノ危險ナクシテ東亞地域  
ニ於テ如何ナル前進ヲモ敢行シ得ルデアラウト詳論シタ。日本ノ話相  
手違ハ之ニ関シテ常ニ彼等ニハ南方ヘノ行動ノ場合ニハ軍事的理由  
カラフィリッピンヲ等因ニ附スルハ不可能ノ様ニ思ハルトイフヲ暗  
示シタ。日本側ニ遂行スベキ合衆國ニ對スル攻撃ハ三國條約ニ於テ  
豫想サレタ諸場合外ニ存シ又從來独逸政府ニヨッテ遵守サレタ線  
ニ逆ッテ合衆國ト独逸トノ公然ノ断絶ヲ恐ラク結果スルニ違ヒナイ



4070C

予私に根本的指令を懇願スル。日本ノ提議ニ黙從スル場合私ハ慎重ニ就中極東カラノ將來ノ原料供給ノ問題モ亦並ニツケテトク経田ノ軍需物資ノ輸入ノ問題モトリアヘルヲ考慮スルヲ欲ス。陸軍武官ハ相應セル電報ニ於テ日本側ノ南方行動ノ為自由ニテ諸報力カニ就テテ報告スルヲアツク。

オット

書類第四〇七〇〇號  
證

4070 C

余 Ulrich Straus、余が独逸語及び日本語に精通セル者ナルコト並ニ  
独逸語原文及び日本語原文ヲ対照シ上右ハ本書書類ヲ與實ニ且  
正確ニ翻譯セルモノルヲ確證セルコトヲ茲ニ證ス。

Ulrich A. Straus, 2d Lt.